

つくしんぼ

平成27年 第171号
新年号
北里研究所病院だより



新年のご挨拶……………P1
市民公開講座
「肺がん-検診から診断・治療まで」レポート ……P4
糖尿病予防キャンペーンレポート ……P4
行事予定 ……P4

特集 消化器外科

…………… P2~3

- 主な症状と疾患
- 腹腔鏡手術とは？
- 主な疾患と治療
- おわりに

目次

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年中、皆さまより当院に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして、職員一同心よりお礼申し上げます。特に昨年の11月の第32回人間ドック契約企業懇親会と第14回医療連携懇親会の開催の際には、数社の社長さまをはじめ400名を超える多くの方々にお集まりいただくとともに、大きな力を与えていただきました。まことにありがとうございました。

この懇親会では当院の最も重要な部門である予防医学センターと医療連携室における今後の展望について話題を提供させていただきました。

“予防医学”は北里柴三郎先生の最も重要視した学問で、研究所創立以来100年間承継されてきた定款でもあり、また当院の基本方針“臨床（診療・予防）・教育・研究・危機管理”の一つとなっております。

予防医学センターは、新病院開院時に設置、従来の検診事業に加え、病気の予知・予防を目指すいくつかの事業を行い、真の“予防医学”を目指してまいりました。今回は馬場彰泰予防医学センター長より「高度予防医学センターへの展望～真の先制医療とは？」というお話をさせていただきましたが、このような考えのもと“予防医学”の分野において、着実に進歩してまいります。

次に当院の特徴である“チーム医療”は北里先生の創立当時の言葉「各部門の分立を防ぎ、連携を緊密にして、学内は融合して、一家族の如く」から、今日まで“終始一貫（北里先生の座右の銘）”変わることなく培われてきた当院の文化・医療そのものであります。

医療連携室はこの“チーム医療”を院内だけに留まらず、院外においても推進するために、予防医学センターと同様、新病院開院時に設置いたしました。活動の一つとして定期的に当院と近隣の医師会・薬剤師会・医療機関やつくし会企業をはじめとする契約企業の先生方および消防署救急隊との会議体である医療連携推進会議を開き、活発な意見交換を通して、良好な関係を構築してまいりました。今回は山田悟室長により「これからの医療連携」というお話をさせていただきましたが、今後はこのような考え方を実践して、より一層連携を強化して、更なる医療連携発展に努めてまいります。

今年度、学校法人北里研究所は創立100周年を終え、これからの100年に向かってスタートいたしました。当院は北里研究所発祥の地、白金キャンパスにおいて、病院理念“心ある医療”のもと、上記の2部門に限らず、全部門で特色ある総合的な医療を展開し、

皆さまに信頼される、選ばれる、満足していただける病院を目指してまいります。今後とも皆さまの暖かい、力強いご支援をお願いします。



▲ 馬場医師 演題「高度予防医学センターへの展望～真の先制医療とは？」



▲ 山田医師 演題「これからの医療連携」





クローズアップ 消化器外科

消化器外科 部長 石井 良幸

主な症状と疾患

1 食道疾患	食物がつかえる、胸に違和感、胸痛、胸焼け、吐血など 食道癌、食道炎、食道アカラシア、食道憩室
2 胃疾患	胃もたれ、みぞおちが痛い、食欲低下、吐き気、大便の色が黒い、吐血など 胃十二指腸潰瘍、胃腫瘍(胃癌、消化管間質腫瘍、カルチノイド)など
3 腸疾患	便潜血、貧血、肛門出血や便のまわりに血がつく、お腹にしこりがある、 便秘、下痢または便秘と下痢を繰り返す、便が漏れる、腹痛など 大腸癌、腸閉塞、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)など
4 肝・胆・膵疾患	顔色が黄色くなった(黄疸)、疲れやすい、右季肋部痛・みぞおちの痛みを繰り返す、 脂肪食後の腹痛、身体がだるい、最近数カ月で体重が減少、慢性的に下痢が続くなど 肝炎、肝細胞癌、胆道癌、胆石症、膵炎、膵腫瘍など

上記のような症状があれば、お気軽にご相談ください。

主な疾患と治療

1 食道癌	早期であれば、内視鏡治療を行います。進行癌になると転移しやすいリンパ節と食道を一緒に取り除き、食べ物が通る道として通常は胃を管状(胃管)にして食道の代用とする食道垂全摘術・胃管再建術などを行います。
2 胃癌	食道癌同様、早期であれば内視鏡治療を行います。胃癌の手術も病巣を含めた胃とその周囲のリンパ節を取り除きます。代表的な手術は胃の約3分の2を切除する幽門側胃切除術と、すべて切除する胃全摘術、及び胃の食道に続く噴門側を切除する噴門側胃切除術があります。
3 大腸癌 (結腸癌、直腸癌)	結腸癌では結腸切除術、直腸癌では癌のできた位置により2種類の手術法が選択されます。自然肛門を温存した直腸切除術(括約筋温存手術)と肛門及び括約筋も切除してしまう直腸切断術です。後者の場合、自然肛門は失われてしまうので人工肛門の造設が必要となります。
4 腸閉塞	腸閉塞の治療は内科的治療が基本となりますが、改善しない場合には外科的治療が選択されます。腸閉塞の原因は過去に受けた手術が原因となるものが多く、それ以外には腫瘍による浸潤によって起こる場合があります。手術は原因(癒着、腫瘍)の除去が基本となります。
5 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病)	潰瘍性大腸炎に対しては、大腸(結腸及び直腸)をすべて切除し、小腸で便を貯める嚢(ふくろ)を作製し、肛門と吻合します。内科的治療によって改善しないクローン病の場合には、狭窄部分を切除あるいはバイパス術などを行います。
6 肝・胆・膵腫瘍	肝細胞癌では、手術可能であれば肝切除を行います。胆嚢癌や胆管癌の手術は様々ですが、進行するとより大きな肝切除と膵頭十二指腸切除が必要です。胆嚢結石症は胆嚢摘出術が基本で、腹腔鏡下胆嚢摘出術を行います。総胆管結石症は、内視鏡的乳頭切開切石術か開腹または腹腔鏡下総胆管切開切石術で胆石を除去します。膵腫瘍では、悪性度に応じて局所切除術、膵頭十二指腸切除術、脾合併膵体尾部切除術、膵全摘術などが行われます。

消化器外科では、食道、胃、腸、肝、胆、膵などの消化器疾患に対する診断と外科手術を中心とした治療を行います。腹腔鏡を用いた低侵襲治療は、現在では多くの臓器に応用し、最先端の質の高い手術を提供すべく様々な工夫をしながら取り組んでいます。さらに、それぞれの臓器のスペシャリストがいるため、チームを組んで対応が可能です。

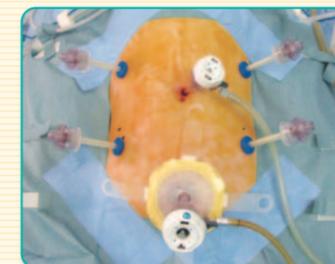
一方で、悪性疾患については腫瘍センター及び放射線治療科、炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病)のような良性疾患については炎症性腸疾患先進治療センターの医師と連携し、集学的治療を行っています。

腹腔鏡手術とは?

腹腔鏡手術とは高性能カメラでお腹の中を撮影し、モニター画面でみながら行う手術のことです。従来の「お腹を切る手術」は開腹術と呼ばれますが、腹腔鏡手術は開腹術(20cm超の創)と比べて非常に小さな創で済むため、術後の痛みが少なく、腸管運動の回復が早く、すぐに食事がとれ、入院期間が短く、早く社会復帰ができることなどが利点です。消化器領域では四半世紀前に胆石などに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術として始まりましたが、現在では様々な臓器に行われています。

当科では、個々の患者さまの病状に合わせた、根治性(病気が治ること)と安全性と低侵襲性(身体に優しいこと)を追求し、新しい工夫を行いながら積極的に腹腔鏡下手術を消化器外科領域に取り入れています。特に、大腸癌では進行癌も腹腔鏡手術の適応としていますが、欧米では大きな臨床試験が行われ、進行大腸癌に対し腹腔鏡手術は長期成績(治る成績)が従来の開腹術に劣らないことが報告されています。炎症性腸疾患の良性疾患についても、緊急でなければ積極的に腹腔鏡手術を行っています。

腹腔鏡手術は全身麻酔下で、お腹の空間(腹腔)に炭酸ガスを入れて膨らませ、お臍から高性能カメラ(腹腔鏡)を挿入します。その後、手術に用いる器具(電気メスや鉗子など)を挿入するために、5-10ミリの小さな孔を数ヶ所に開けます(図1)。この手術は、専用の高性能カメラによる拡大した鮮明な画像を見ながら行うため、従来の開腹手術では見えにくかった部位や細かい血管・神経がよく見えて繊細な手術操作が可能です。病変部位は、腹腔内での手術操作を終えたあとに3-5cmの切開創からおなかの外に取りだします。



▲図1

最近ではより低侵襲で整容性を追求した単孔式腹腔鏡下手術という1つの孔で行う手術も登場しました。その孔はお臍に開けるので、術後はどこを切ったかわからず、最新の腹腔鏡手術の1つといえます(図2、3)。

おわりに

病気の治療に当たっては、まず確実に診断をつけ、その患者さまの全身状態を把握し、個々にあった治療を適格に行うことが重要です。そのためには、患者さまとコミュニケーションを十分に図り、患者さまの立場から治療を考えるようにし、良い医療を提供できるよう努めています。



▲図2



▲図3



市民公開講座「肺がん一検診から診断・治療まで」レポート



10月26日、薬学部コンベンションホールにおいて、第4回市民公開講座を開催しました。テーマは「肺がん一検診から診断・治療まで」で当院呼吸器外科部長 神谷紀輝医師（内視鏡を用いた肺がん手術（胸腔鏡手術）の実際）、渡邊智之理学療法士（呼吸リハビリテーション）、副院長 鈴木幸男医師（肺がんを予防するために）の3人が講演しました。好天に恵まれ、当院に通院されている患者さまやご家族、近隣の方々が参加され、講演の後も、熱心な質疑応答が交わされました。肺がん発生のリスクには喫煙等環境要因が最も関与しており、受動喫煙を避ける重要性や、スポーツにおけるたばこ産業のスポンサーシップの制限、オリンピック開催都市では受動喫煙防止条例が必須とされていることなどが紹介されました。



糖尿病予防キャンペーンレポート

10月31日（金）に港区役所で無料血糖測定会「糖尿病予防キャンペーン」を開催しました。このイベントは平成18年の国連決議を契機に、毎年、世界糖尿病デー（11月14日）頃に開催してきたもので8回目となります。今年は港区役所との共催で、はじめて港区役所で実施しました。92名の方が参加され、3名が糖尿病診断基準を満たして、受診勧奨につながりました。昨年までの白金高輪駅での開催に比較すると、駅構内では多くの乗降客が足早に移動して慌ただしい測定でしたが、港区役所の来訪者の方たちは、血糖測定後の健康相談もしっかりと聞いてくださる方が多く、より有意義な会になったと感じます。



行事予定

■生活習慣病教室（無料）

開催日 平成27年1月10日（土）
時間 午前10時00分～午前11時30分
場所 3階セミナー室
定員 30名
申込方法 TEL 03-5791-6345
(予防医学センター)

■肝臓病教室（無料）

開催日 平成27年2月14日（土）
時間 午前10時30分～午前11時30分
場所 4階A会議室
定員 30名
申込方法 TEL 03-5791-6345
(予約センター)

■眼低下垂セミナー（無料）

開催日 平成27年2月23日（月）
時間 午前10時00分～午前11時30分
場所 4階AB会議室
定員 30名
申込方法 TEL 03-5791-6148
(美容医学)

■リビングウィルセミナー（有料）

開催日 平成27年2月7日（土）
時間 午前10時00分～午前12時00分
場所 4階AB会議室
受講料 2,000円（税別）
定員 20名
申込方法 TEL 03-5791-6345
(予約センター)

■がんに関する語り（無料）

テーマ 医師が考えるがん医療と患者さま
ご家族が考えるがん医療
開催日 平成27年1月10日（土）
時間 午前10時00分～午前11時30分
場所 4階AB会議室
対象 当院を受診されているがん患者さまと
そのご家族（外来入院は問いません）
定員 15名
申込方法 TEL 03-5791-6345
(予約センター)



●●● 編集後記 ●●●

明けましておめでとうございます。昨年に続き今年も9連休ということで、海外でお正月を過ごされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私も海外で...と言いたいところですが、実家や親族宅への挨拶回り等で今年もあつという間に休みが終わってしまいました。ところで皆さま「トラベラーズワクチン」をご存知ですか？当院では、小児および成人の海外旅行、留学、海外出張など海外渡航時に必要な予防接種を小児科外来にて行っております。受付方法は、月曜日・火曜日等は午後3時～午後4時まで、水曜日は午後1時30分～午後3時まで行っております。楽しい思い出をたくさん作るためにも、海外渡航時のお守りとしていかがでしょうか。

(小倉)

新任医師紹介

平成26年10月1日付



麻酔科 医員
吉村 薫子
(よしむら かおるこ)



総合内科 後期研修医
長野 雅史
(ながの まさふみ)



整形外科 医員
堀内 陽介
(ほりうち ようすけ)